

「ファミリー世帯のニーズを捉えた居住環境の創出」、「地域のまちなみに調和した景観形成」及び「実現性の高い建設コストの縮減策」についての提案

風をつかむ・光をみちびく・人をつなぐまち —人と自然が寄り添う住空間をめざして—



25.7cm×5.75cm=147.78cm<150cm

テーマ1 「ファミリー世帯のニーズを捉えた居住環境の創出」について

一筆書きのように敷地に描かれた住戸群は児童遊園を見守るように存在しています。またその住戸群は現在と将来の要求に耐えうる、新しくも普遍的な高い居住環境を創出します。

1 子供たちにとって安心な場【図3】

- 車の動線を敷地の外周部のみとして歩車道を分離し、敷地の中央部は子供たちが安心して遊べる場とします。
- 児童遊園は建物で一体的に取り囲むような配置とし、地域住民全員により日常的に無理のない自然な形で子供たちの遊び場を見守れます。
- 敷地の端から端まで見通せる箇所を多数設け、集会室もガラス壁とし、ブラインドとなる場所をなくして不審者を寄せ付けられないようにつくり、子供たちの安全に配慮した環境とします。

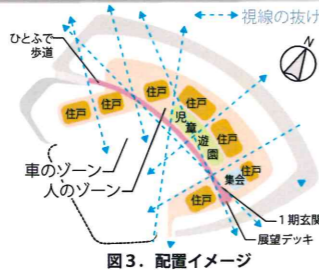


図3. 配置イメージ

2 ファミリーの生活を考慮したプラン【図4】

- 住戸プランをリビングアクセスタイプとすることで、廊下が無くなり、居住スペースをより広く合理的に利用できます。また各部屋が一体的につながり、家族間のコミュニケーションが自然と促され、廊下がないことで温熱環境のバリアフリーともなります。
- 居室、非居室関係なくほとんどの居住空間が北と南の開口部につながり、質の高い自然換気が可能となり、子供から高齢者まで健康的な居住環境とします。
- 住棟の間に風と光の「通り道」に面している住戸は、外壁3面に開口が可能で、さらに快適な居住空間となります。
- 住戸内の玄関から、キッチン・トイレ・脱衣室・浴室までを一連の空間とし、ファミリー世帯では特に負担の大きい家事を最短の動線で合理的に行えます。
- 通常玄関側配置が多い浴室・脱衣室を南のベランダ側に配置し、自然採光・自然換気が可能となり、より健全な居住環境や脱衣室で身支度をする際の居住性能を提供します。
- バルコニーを広めに計画し、頻度の高い洗濯と多量の物干しを行いやすくします。

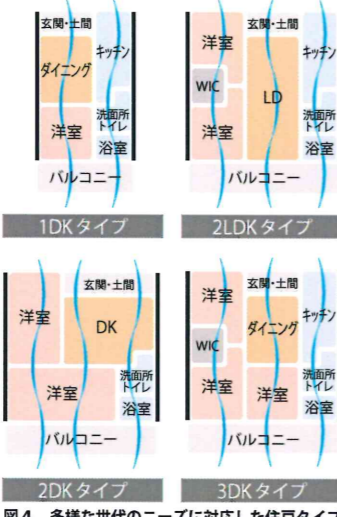


図4. 多様な世帯のニーズに対応した住戸タイプ

3 スタイリッシュなまち

- バルコニー奥側の外壁を南から北側に向かって熊野筆から連想する墨色の濃いウォームグレー色から薄いウォームグレー色とし、南側のアプローチから建物群を眺めた時、一層パースペクティブが強調された奥行き感となり、繊細でスタイリッシュな景観形成を実現します。【図5】
- バルコニー内の直接雨掛かりとならない側壁面を白色塗装とし、自然光の反射光をより多く室内へ取り入れ明るい内部空間とします。
- 中層棟を全て壁式構造とすることで、梁型を室内から無くし、広々としたスタイリッシュな空間作りとします。



図5. 外壁色グラデーションイメージ

4 子供たちの原風景

- 外壁の雨掛かりとならない箇所に、仕上材（構造体に対する保護材）として木材の採用を検討し、コンクリート造でありながらも豊富な木に囲まれたおおらかな雰囲気のある児童遊園とし、子供たちの心に残る原風景の場とします。

テーマ2 「地域のまちなみに調和した景観形成」について

その土地の歴史、風土、社会性を読み込み、その土地に溶け込みながらも新たな価値観と風景を創ります。その景観は、熊野の名産「熊野筆」やそこに生き続ける自然、光や風ともリンクします。

1 つながる分節スタイル

- 1フロアに最大3戸の集合体とする分節型プランで規模感を極力軽減し、住宅の多いまちなみに馴染むようにします。【図6】
- 玄関棟のある棟を高層棟、その両サイドを中層棟として高層棟のボリューム感を軽減し、道行く人や近隣への圧迫感を軽減します。【図7】
- 北側近隣から見た時、現在は低層なものの横長で景色を遮断していましたが、今回はところどころの抜けで遠景の景色が垣間見ることができ「まち」は寸断されず有機的に連続し開放的で風通しの良い外部空間を形成します。【図7】

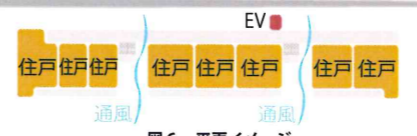


図6. 平面イメージ

2 風を通しまちを生かす

- 各住棟に設けた階段に付随して隙間（風と光と人の通り道）を設けることで、自然の風を通りやすくし、各住戸内へ風を導き、さらには平均風向である南南西の風を遮ることなく北側の近隣住宅群へ導きます。

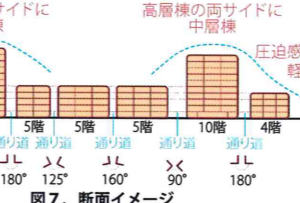
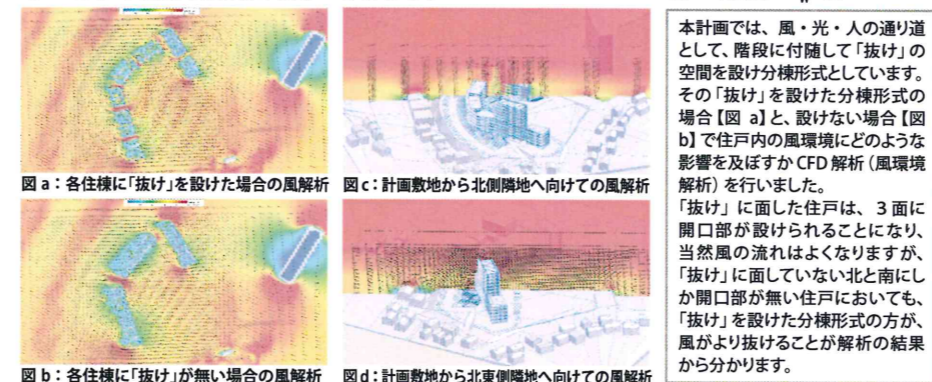


図7. 断面イメージ



図a: 各住棟に「抜け」を設けた場合の風解析

図c: 計画敷地から北側隣地へ向けての風解析

図b: 各住棟に「抜け」が無い場合の風解析

図d: 計画敷地から北東側隣地へ向けての風解析

3 ひとふで歩道と展望デッキ

- 敷地西側の出入口付近から緩やかな弧を描く通路（ひとふで歩道）を設け、1期と2期の玄関を結び連携を高めるとともに、最南端には展望デッキを設けて遠景の美しい山並みやお花見ができるようにし、街の調和に貢献します。【図9】

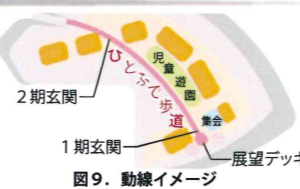


図9. 動線イメージ

4 木の温かみを付加する

- 駐輪場に県産材をふんだんに利用した木構造の採用を検討し、木質化の促進と均質で殺風景な景観にながちな駐輪場一帯に、木のリズムカルで自然の風景に溶け込んだ景観要素を創ります。【図10】
- 住棟間やエントランスの隙間の雨掛かりとならない部分に木を貼り、ゲートのようなデザイン通りの通り道とし、「風をつかみ、光をみちびき、人をつなぐ」象徴とします。

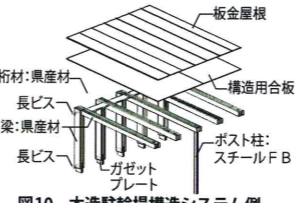


図10. 木造駐輪場構造システム例

居住環境と周辺状況に配慮した配置イメージ

全住戸を南東から南南西の方向に向けて配置して分棟形式とし、採光・通風を十分に取り入れ、自然エネルギーを利用した健康的で快適な居住空間とします。

囲い込むような建物レイアウトで1期と2期の連結が可能なくつくりとし、一体感を醸成しつつ、正対しない配置で各住戸からの視線に配慮します。（棟数は1棟）

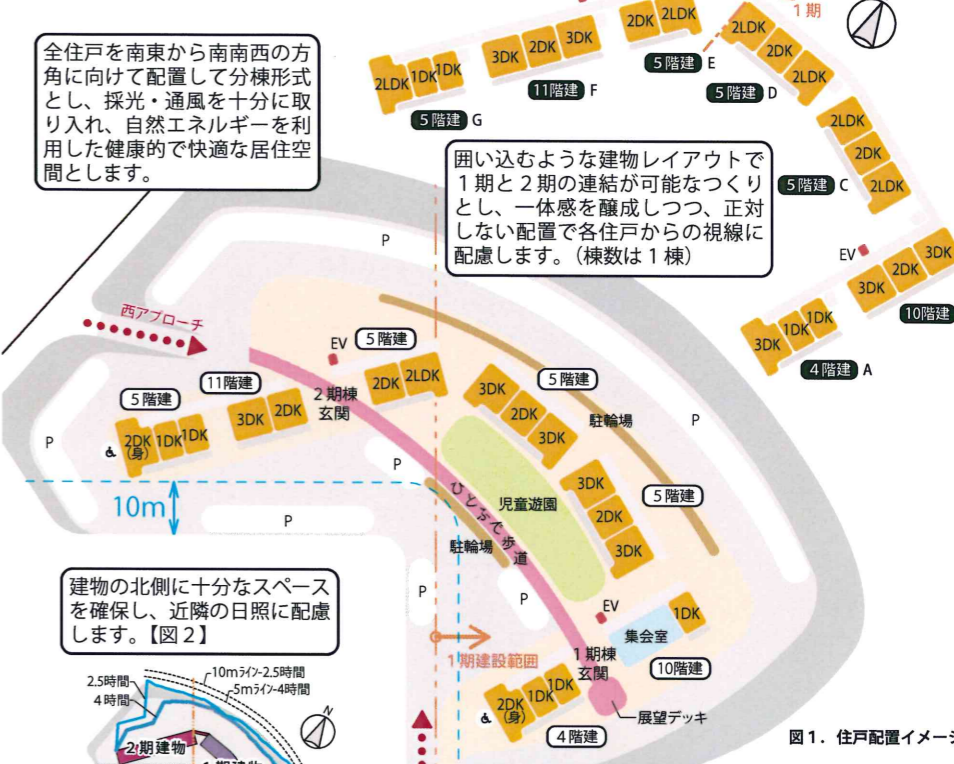


図1. 住戸配置イメージ

建物の北側に十分なスペースを確保し、近隣の日照に配慮します。【図2】

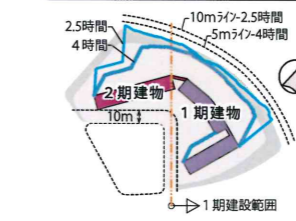


図2. 日影図

	想定住戸表							合計	設定戸数
	1期			2期					
	A	B	C	D	E	F	G	計	
1DK	8	1	9				10	19	20±2
2DK	9	5	5	19	5	11		16	35
2LDK			10	10	20	5		4	29
2DK(身)	1				1		1	1	2
3DK	3	18			21		20	20	41
合計	12	28	15	15	70	10	31	15	126

テーマ3 「実現性の高い建設コストの縮減策」について

住人の暮らしと将来のライフサイクルコストに配慮しつつ、細やかで丁寧な構造計画や適材適所の工法策定を積み重ねコスト縮減を図ります。

1 構造方式の最適化

- 低層棟をRC壁式構造、高層棟をRCラーメン構造とし、建物規模に適した合理的な構造形式とすることで、コスト縮減に努めます。
- RC壁式構造により、コンクリート量・鉄筋量の削減と建物の軽量化による基礎形式の合理化を図ります。
- RCラーメン構造は耐震壁をバランスよく配置し、シンプルで無理のないスパンでコスト縮減を図ります。【図11】

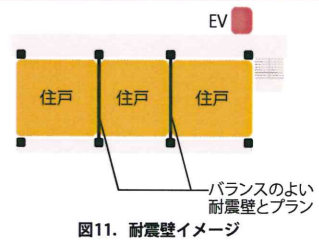


図11. 耐震壁イメージ

2 プラン、デザインの合理化

- バルコニーや開放廊下のスラブ型枠を一部捨て型枠（県産材利用）とし、そのまま仕上材として利用することにより建築工事の合理化と木質化の促進を図ります。【図12 参考写真】
- 階段を建物と一体的な配置とし、杭の本数を極力削減します。
- 住戸のモジュール化による合理化でコスト縮減を図ります。
- 水廻り以外は直貼り仕上げとし、二重床範囲を極力小さくします。
- 建物は直線基調の建物とし、特殊な曲面材料や余分な手間がかからないようにしてコストダウンを図ります。



図12. 天井仕上げに使う捨て型枠例

3 現場作業を考慮した合理化

- 造成時切土部分に建物を極力配置し、基礎形式の合理化を図ります。
- 建物を極力基準寸法で割り付けて型枠材の転用回数を増やし、コスト縮減を図ります。
- 室内側のスラブ型枠をハーフPCによる工法で検討し、工期短縮及びコスト縮減を図ります。【図13】

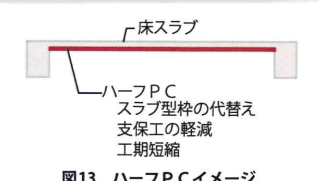


図13. ハーフPCイメージ

